

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣特別支援学校

学校番号

109

自己評価

<p>学校教育目標</p>	<p>・児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな教育を行うことにより、一人一人の可能性を最大限に伸ばす。さらに、「強く 明るく 仲良く」生きようとする意欲を高め、一人一人の自立と社会参加を目指し、基礎的・基本的な力を身に付け、「生きる力」を育む。</p>
<p>評価する領域・分野</p>	<p>・教育活動全般</p>
<p>現状及びアンケートの結果分析等</p>	<p>・アンケートの結果、多くの項目において「よくあてはまる」「ややあてはまる」との評価が80%を超え、一定の評価をされた一方、昨年度に比べるとその割合は下がった。「よくわからない」との評価の割合が上がった項目が多く、ホームページや通信、すぐメール等を有効利用した情報発信の仕方を検討する必要がある。</p> <p>・特に、昨年度と共通して、「特色ある教育活動」「進路指導」についての評価が低く、今後の重点課題として改善に努めていきたい。</p>
<p>今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<p>(1)「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を核にした、PDCAサイクルの改善 (2)児童生徒の学習活動の様子や成果の発信と、地域の教育力の活用 (3)命を守る教育と体制の充実 (4)働き方改革(教職員の働き方改革プラン2022)の推進</p>
<p>目標を達成するための校内組織体制</p>	<p>・基礎的・基本的な力が確実に身に付くよう児童生徒の実態を的確に捉え、将来を見据えた児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた学習活動を進める。新学習指導要領に伴う教育内容の充実、ICT活用の推進を図る。</p> <p>・保護者との連携を強化するとともに、障がいの理解啓発のために外部機関への発信も積極的に図る。</p> <p>・防災安全部を中心に、災害発生時に児童生徒がより主体的に行動できるような学習内容を工夫する。</p> <p>・管理職を中心に、働き方改革プラン2022を職員に周知し、推進を図る。</p>
<p>目標の達成に必要な具体的取組</p>	<p>・児童生徒の自発的な学習を促すよう、体験的な活動を重視するとともに、教育環境やICT機器を活用した教材・教具の開発・工夫に努める。</p> <p>・連絡帳や通信等で保護者との連携を確実にするとともに、児童生徒の学習の様子を報道機関等を通して、保護者や地域へ積極的に発信する。</p> <p>・年3回の命を守る訓練等における事前及び事後指導の充実を図るとともに、訓練により命を守る行動の定着化を図る。また、職員防災力テスト、家庭の減災力テストを実施し、職員・家庭の防災・減災意識の向上に努める。</p> <p>・退庁時刻の遵守を徹底する。また、業務が偏在しないよう校内組織の見直しを図る。</p> <p>・各分掌や各部での業務の見直しや、削減に向けての取組を積極的に進める。</p>
<p>達成度の判断・判定基準あるいは指標</p>	<p>・児童生徒の充実感や達成感の把握 ・保護者アンケートや保護者懇談等での意見・要望 ・外部機関(学校運営協議会・内閣府)からの意見や評価</p>
<p>取組状況・実践内容等</p>	<p>・連絡帳、通信等による具体的内容の情報発信が、保護者と共通理解を深める関係の構築に繋がった。</p> <p>・命を守る訓練を様々な状況を想定して計画的に行うことができた。また、水害を想定した訓練も行い、児童生徒の上階への避難方法についても職員間で確認することができた。防災に関する学習については、浸水状況をVR(仮想現実)を用いて体験的に理解できるような取組も始めた。</p> <p>避難所運営等について、専門家や地域代表との協議会をもち、さまざまな課題を確認できた。</p> <p>・会議等の精選や退勤時間の励行等の言葉掛けにより、勤務時間の削減意識が高まってきた。また、退勤時間を超えての従事について、事前申告書を提出することにより、計画的に業務を進めることができた。</p>

評価の視点	評価
<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒個々の教育目標を的確に捉え、ニーズに応じた指導・支援、及び指導力の向上を図ることができたか。 ・学校情報を発信することで、保護者との共通理解の構築や地域の教育力の活用に努めることができたか。 ・防災教育（命を守る教育）を充実させることができたか。 ・働き方改革を推進することはできたか。 	<p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> A B C D</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p>
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍の折、「できない」ではなく「どうすればできるか」を念頭に置き、より体験的な学習活動を計画することで児童生徒にとっても有意義な活動を進めることができた。 ○タブレット端末を活用した授業や他の学校とオンラインでつないで学校間交流を行うなど、ICTを活用した授業を積極的に取り入れることができた。 ○昨年度に引き続き、自治会・地域住民と避難所運営協議会を開催することができ、避難所開設に向けて組織の確認や課題等を検討することができた。 ○分掌業務の見直しや、分掌間の連携を軸に業務の平準化・効率化を進め、成果や課題について明らかになってきた。 ▲授業の質を向上するために、授業づくりにおける職員研修の在り方を検討する必要がある。 ▲保護者アンケートから、学習状況や進路情報等、情報提供の不足を否定できない分野があった。このような評価が複数年、継続されていることを考えると、更に教育活動の発信方法を工夫する必要がある。 ▲まだまだ業務の偏在は否めない状況であるが、来年度、業務の平準化・効率化をめざして学校組織の見直しを行っていく方向で進めている。 	<p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p>
<p>来年度に向けての改善方策案</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業改善型」の研修の推進 ・保護者が求める情報を察知し、分かりやすい情報の積極的配信 ・児童生徒の防災に関する学習内容の工夫や教材教具の充実 ・職員のやりがいと指導の充実をめざした校内分掌業務の見直し

学校関係者評価（令和5年3月 開催）

<p>意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末の使用について、有効的な活用をしてほしい。 ・工夫に満ちたご指導はありがたい。障がい者手帳があってもフルタイムで働ける力を身に付けて欲しい。 ・卒業式の練習に感動した。コロナ禍で、歌を歌う機会も少ない中で、生の歌を聴けることができてよかった。保護者として、卒業後の進路についてどのように進めていけば良いかを教えてほしい。 ・先生方が、コロナ禍で「何ができるか」を考えながら進めているという言葉が心に残っている。アンケートの改善も前向きに考えてあり良い。 ・コロナ禍で、先生方が色々考えてやっているということを児童生徒に説明したり、見せたりすることが大切ではないか。 ・卒業生に対して見届けを行うフォローアップシステムがあることが素晴らしい。 ・小学部から高等部までひとつの学校で連携して、一貫した教育ができています。 ・働き方改革で先生方の負担が増えているのではないかと。先生方のケアや若い人を育てていくことを大切にしてほしい。
--